科目ナンバリング	U-LAS05 20011 LJ39						
授業科目名<英訳>	人文地理学各論II（村落） Topics in Human Geography II(Rural Settlement)			担当者所属職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　小島　泰雄		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	地域・文化(各論)		使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・前期	曜時限	金2	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

テーマ：農村への人文地理学的アプローチ。
人文地理学は農村の何を明らかにしようとしているのだろうか。大きく変わってゆく農村をどのように対象にすえ、考察してきたのかについて、具体的な事例を通して考えてゆく。

[到達目標]

農村地理学の概要を理解する。
農村が直面している課題を解決するための思考力を習得する。

[授業計画と内容]

以下のような課題について授業を行う。具体的な事例、とくに中国と日本の農村を主要なフィールドとして、農村地理学を概観してゆく。授業回数は15回、最終回はフィードバック。

1．農村性：農村とは何か？
2．生活空間：農民の活動から考える農村とは？
3．集落形態：なぜ集まって住むのだろうか？
4．土地利用：土地利用に表れた農村変化とは？
5．農業の構造変化：生産主義農業による農村変化とは？
6．人口変動：農村の人口変動における都市の役割とは？
7．労働移動：高度経済成長における日中の違いとは？
8．近郊：近郊に表れた中国農村の特徴とは？
9．農村工業：農村開発の中国モデルとは？
10．農村に住む：田園回帰が示す都市農村関係の変化とは？
11．農村を消費する：農村の商品化とは？
12．グローバル化：グローバル化は農村をどう変えるのか？
13．持続可能性：農村の20世紀を相対化するとは？
14．内発的発展：住民の参加による農村開発とは？

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

主に期末試験による（8割）が、授業への参加度を加味する（2割）。
授業への参加度は、授業終了時のミニッツペーパー（5%）と授業後2週間以内に提出する課題レポート（15%）の提出によって測る。

人文地理学各論II（村落）(2)へ続く↓↓↓

人文地理学各論II（村落）(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業ごとに提示される課題レポートに取り組むことで、自ら関心あるテーマについて発展的な理解を増進する。なお課題レポートの標準的な提出回数は2回とする。

[その他（オフィスアワー等）]

履修希望者が教室の収容可能人数を超えた場合には、履修制限を行うことになります。とくに履修を希望する学生には「教員推薦」を実施する予定です。

[主要授業科目（学部・学科名）]

総合人間学部